

突撃！隣の梅花講

継続は力なり

高德寺梅花講



前日に降った雪も止み、雪の帽子をかぶったやさらぎ地蔵さまにお参りして境内地に入りました。

玄関に入ると、車いす用のなだらかなスロープがあり、古式ゆかしい佇まいの中にも檀家さんのことを思いやったバリアフリーが目に入ります。



今日は今年初の例会、しかも、その後に楽しい新年会ということ、久しぶりにあった仲間とのおしゃべりがとってもし楽しそう。突然お邪魔した私達でしたが、温かく迎え入れて下さいました。

講習会が始まりますと、真剣そのもの。勤行式を先生ではなく、当番の講員さんが中心になって進行していきます。

開経偈 懺悔文 三帰礼文に引き続き般若心経 その後三宝御和讃から紫雲まで法具を伴ってお唱えをします。この勤行式は毎回行うようで、流れるように進行します。

師範 「今度の奉詠大会は何をお唱えしますか？」

「全国大会で永平寺様の法堂で献詠し

ますので、道元様の曲にしましょうか」

今年は住職五十年、副住職五十歳、皆さんが入講して十五年の節目の年だそうです。梅花流も創立六十五周年です。



一服でくす

「いつも当番さんを中心にして、勤行式をなされるんですか」

「はい。始めた当初から続けています」
「すごいですね。力になりますね。」

「初めのうちは難しく、何年たった

ら曲を覚えることができるのかと思いましたが

「手は両方使うし、経典は見なければいけないし、慣れるまで大変でした」

「符も全然わからないし」

「特に紫雲は早い段階から始めたから大変でした。所作も難しかったです」

「覚えるまでどれくらいかかりましたか

「一年位かかったかな」

師範 「（紫雲は定着するために、毎回の例会の最初に発声練習も兼ねてやりました。今でもやっています。その継続が力になっているみたいです」



下さいます」

「月一回（の例会）が楽しみです」

「私は先生に会えるのが前の日から楽しみです♥」（笑い）拍手

「私は、御詠歌をお唱えしていると、道元禅師の言葉の意味がスーっと心の中に入ってきます。難しい本を読むよりずっといいです」

「素晴らしい感性です」

「ところで皆様が梅花を始めたきっかけは何ですか」

「私は近くの八幡さままでお唱えしているのを耳にしました。法具をお姑さんの物をおさがりで使わせていただきました」

「いいですね」

「私は若くして父、母、そして友人まで亡くした時に追弔御和讃を拝聴し、感動したのがきっかけです。お葬式でお唱えする追弔御和讃の曲が大好きで、一番から三番まで自分で紙に書いて覚えまして」

「亡き友には、生前から御詠歌をあげて供養してあげると約束してましたからお墓の前でお唱えさせていただいていま



「その時は家でも口ずさんでました」

「私は畑で作業をしながらやっていたました」

「寝ても醒めてもお唱えしてました」

（笑い）

お寺の法要にも毎回参加なされているので、もう緊張もされないそうです。和尚様方と一体となってご供養なされているのでしょね。継続は力なり、習うより慣れろ、ですね。

「梅花をはじめて良かったですか」

全員 「はい！」

「（毎回）みんなに会えるのが楽しみです」

師範 「皆さんほとんど休まずに来て

す」

—きっとお喜んでいるでしょうね—

「私は島倉千代子さんの彼岸御和讃を聞いて、いいなと思ったのがきっかけです」

—そういえば、皆さん、島倉千代子と吉永小百合を足して二で割ったような人ばかりです—

とにかく明るい高德寺梅花講の皆さんで、笑いがたえません。最後に宗務所に対しての要望を聞いてみました。

「十五年たっても大会に登壇する他の講がどこの地区にあるのかわかりません。大会のパンフレットに住所を書いてもらうと覚えられます。それと、和尚様方の顔と名前を覚えたいです」

—検討いたします—



迎えるバスが来ました。この後は新年会です！

高德寺梅花講の皆さま、ありがとうございました。

※宗務所企画 「隣の梅花講」、次は慶雲寺講へうかがいます。

(このたびの取材は平成二十九年一月二十一日にさせていただきました。)

高德寺講 (川西町)

講長 嶋津 泰雄
指導者 奥山 雅廣

講員募集中です。興味のある方は

【(0238) 42-2859】
までお問い合わせ下さい

